

沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】

事業名	サイクルツーリズム推進事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－3－(9)－ア スポーツ関連産業の振興と地域の 活性化	
担当部署名	経済産業部	スポーツ課	事業実施 年度	令和 2	～ 令和 4	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ—1—(1)
事業内容	サイクリングによる市内への誘客を図り、ひいては観光関連事業者の消費拡大に繋げていくことを目的とする。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R3年度	R4年度	5年度	合計	
	A. 予算現額	10,000	10,000	10,000	0	30,000	
	B. 執行済額	9,922	9,985	9,825	0	29,732	
	うち 交付金充当額	7,937	7,987	7,860	0	23,784	
	執行率(%) (B/A)	99.2%	99.9%	98.3%	#DIV/0!	99.1%	
	執行状況の説明	最終的な執行率は99.1%となり、概ね執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	誘客ターゲットの設定	目 標	誘客ターゲ ットの設定				
		実 績	誘客ターゲ ットの設定の 完了				
	受入環境整備 サイクリングマップの作製	目 標		受入環境整 備・サイク リングマッ プ作製			
		実 績		受入環境整 備・サイク リングマッ プ作製の完 了			
	WEBサイトを 活用した国内 外向けプロモ ーション実施	目 標			プロモーシ ョンの実施		
		実 績			プロモーシ ョンの完了		
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			2年度	3年度	4年度	〇年度	〇年度
	調査報告書の 作成	目 標	調査報告書 の作成				
		実 績	調査報告書 の作成完了				
	受入環境の 整備完了	目 標		受入環境の 整備実施			
		実 績		受入環境の 整備完了			
	メディア等を 活用した観光 誘客プロモー ションの完了	目 標			観光誘客プ ロモーショ ンの実施		
		実 績			観光誘客プ ロモーショ ンの完了		

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
		R4年度	R5年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度	
事業完了後の成果目標	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果						
	サイクリングロード上の商業施設(勝連城跡休憩所)の売上高	目 標	16,960千円以上	16,960千円以上			
		実 績	9,605千円	12,908千円			
	R4年度の環境整備事業者へのサイクリストの来訪者案内	目 標	300人以上	300人以上			
		実 績	330人	330人			
	状況説明	【R4年度】 ・勝連城跡休憩所の売り上げについては、コロナ禍の影響があり、下回る結果となった。 サイクリストの来訪者数については、民間主導のイベントの実施や、当事業のPR等により、目標人数を上回る結果となった。 【R5年度】 ・勝連城跡休憩所の売上高について、コロナ禍から回復傾向にあることや、うるマルシェ(うるま市農水産業振興戦略拠点施設)のサテライト店が出店したこともあり売上高は増加したが、目標を下回った。 ・サイクリストの来訪者数については、前年度と同程度。 【 年度】 ・					

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R4年度】 ・コロナ禍による影響で、県外および国外のサイクリストの来訪が見込めないものがあり、アフターコロナに向けた取組が必要となっている。	【R4年度】 ・アフターコロナを見据え、より効果的な発信を行い、より本事業の取組をPRすることで、域外からのサイクリストを呼び込む必要がある。
【R5年度】 ・観光客数についてはコロナ禍から回復傾向にあるが、本市のサイクルツーリズムの知名度が高いとは言えない状況であり、継続的な情報発信が必要。	【R5年度】 ・効果的な発信を行い本事業の取組をPRするとともに、サイクルツーリズムの付加価値向上を図る必要がある。
【 年度】 ・	【 年度】 ・

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【4年度】

- ・本事業においては、サイクリストへの安心安全なサイクリングの環境を提供するため、市内の各観光関連事業者に対し、サイクリストが求めること等を共有し、受入環境の体制を整えることが必須になる。本市の取組を周知し、域内消費の向上に務める必要がある。

【5年度】

- ・受入環境の整備や取組を周知を引き続き行うとともに、サイクルツーリズムの付加価値向上のため、電動自転車の効果的な活用等を検討する。
- ・勝連城跡（あまわりパーク）等で、県外から誘客が見込めるイベントを実施しており、そのイベントと連動することも検討する必要がある。

【 年度】

- ・